

### 3 高齢者施設等における感染症対策

#### 【現状と課題】

- 免疫力の低下した高齢者が多く入所する高齢者施設等において、安全に生活するためには、感染症の発生予防と拡大防止が重要であり、東京都では、感染症予防対策について、実地検査を利用した指導を実施しています。
- 冬の感染症流行期前には、特別養護老人ホーム等の高齢者施設の管理者等向けに、「感染症対策指導者養成研修」を実施し、実際に感染症が発生した場合の対応、感染症の発生予防及びまん延防止などについて知識の普及に努めています。
- しかしながら、感染症は種々あり、施設等の全ての職員が知識を十分持ち合わせている状況ではなく、また、新型インフルエンザなどの感染症の知識についても今後積極的に普及させていく必要があります。

#### 【施策の方向】

- 今後も、新型インフルエンザなどを含めた感染症予防及びまん延防止に係る理解の促進の取組を支援していきます。

#### 【主な施策】

##### ・ 感染症対策指導者養成研修〔福祉保健局〕

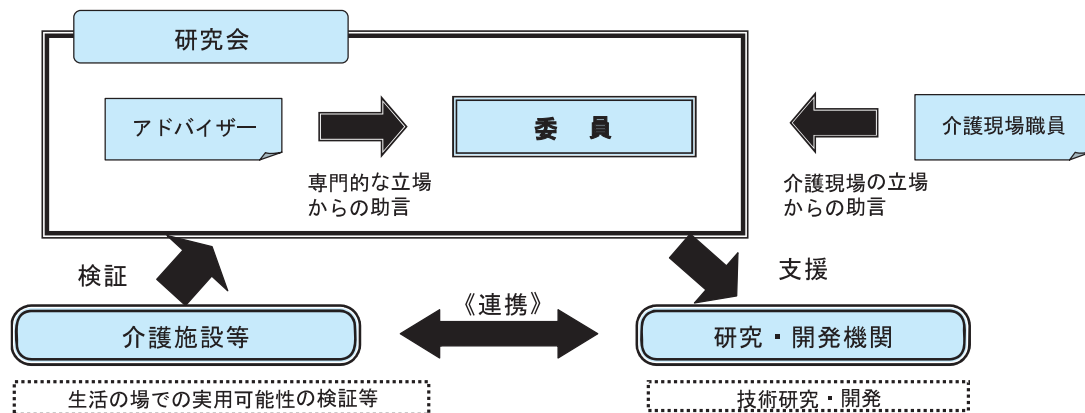
特別養護老人ホーム等において感染症の発生を予防するとともに、発生時に適切な対応ができるような施設内体制を整備することを目的として、特別養護老人ホーム等の施設管理者及び感染対策担当者等を対象とした研修を実施します。

#### 4 最先端技術の活用

##### 【現状と課題】

- 高齢者人口の急増に伴い、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も増加しており、地域・在宅における高齢者の安全・安心を確保する必要性が高まっています。
- 従来から行政機関やボランティア等による見守り支援が行われていますが、地域社会における連帯感の希薄化などにより、高齢者への支援が十分でない状況もあります。
- 高齢者の家庭内における主な不慮の事故として、①転倒・転落、②溺死・溺水、③窒息が挙げられ、いずれも一人暮らし高齢者等には致命傷となるものです。
- また、介護者不足、介護者の高齢化による肉体的負担が大きな問題となっていることから、介護者の肉体的負担軽減を図ることが課題となっています。
- 大学や研究機関等が集積している東京の強みを生かし、ロボットをはじめとするITを活用することは、高齢者の安全・安心を確保していく上で重要な視点です。
- 都では、平成20年度に「高齢者支援技術活用促進研究会」を設置し、IT（ロボット等）の活用方法等について検討を進めています。

##### <高齢者支援技術活用促進研究会の概要>



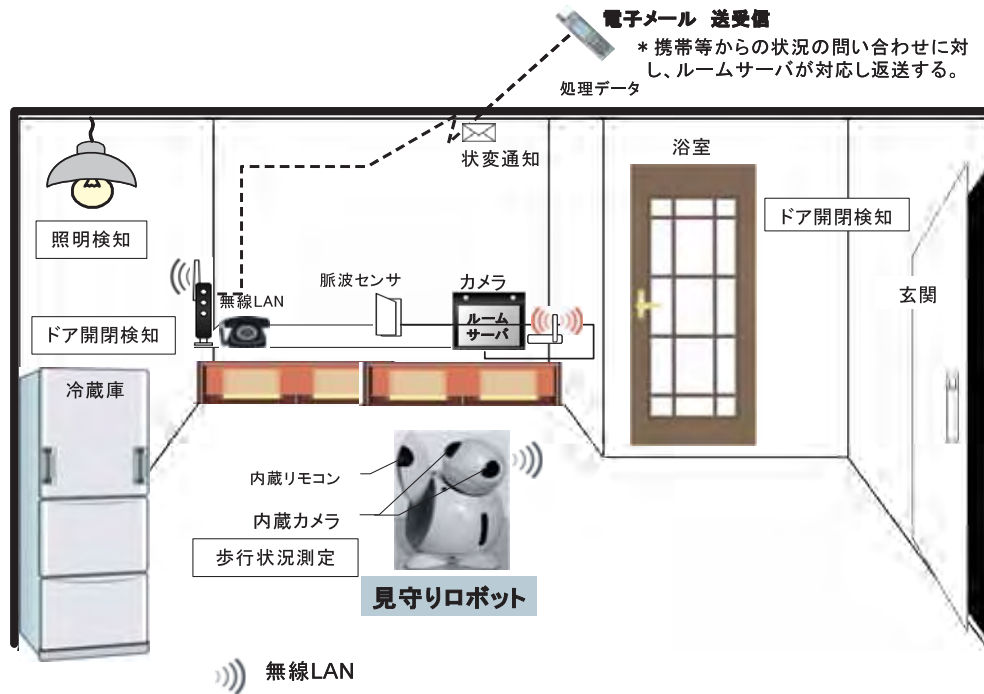
資料：東京都福祉保健局高齢社会対策部作成

##### 【施策の方向】

- 高齢者が在宅で安心した生活を実現するため、モニタリング機能を備えた見守りロボットの開発を更に促進します。
- 介護者自身が筋力補助装置を使用することにより、入浴・排泄・移乗等の介助時の肉体的負担軽減を図るための研究・開発を目指します。

## ＜開発ロボットのイメージ＞

### 〔見守りロボット(例)〕



資料：首都大学東京における研究資料に基づいて作成

### 【主な施策】

#### ・高齢者支援技術活用促進事業〔福祉保健局〕

IT（ロボット等）を生活支援や見守り機能として介護施設や在宅で活用するため、学識経験者や大学などからなる研究会を設置し、具体的な開発の方向性を検討するとともに開発支援を行います。

